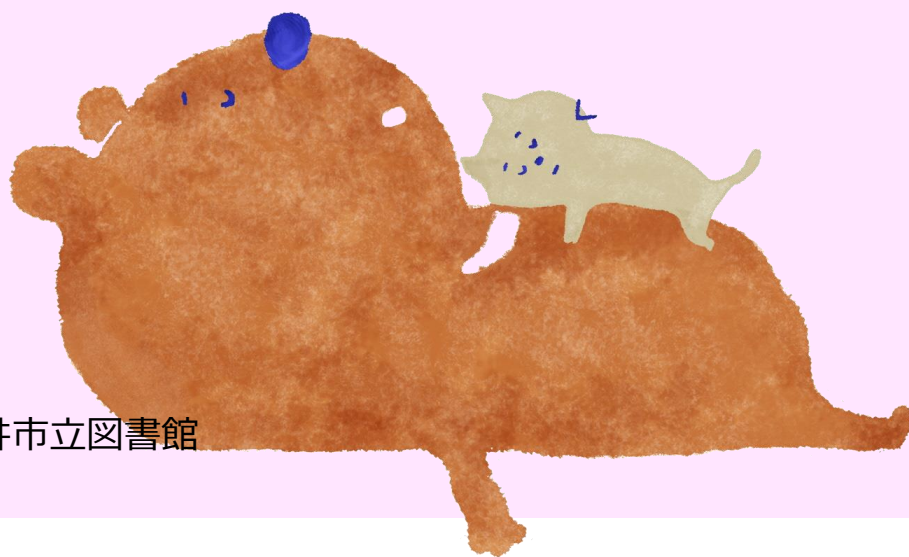


読んであげたい4歳からのえほん



この本
よんだよ
どの本
よもうか



袋井市立図書館

も く じ

おはなしのえほん 2

かがくのえほん 7

むかしばなしのえほん 9

ことばのえほん 11

じ
字のないえほん 12

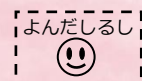
ちょっとながいおはなし . . 13



この冊子の使い方

- 種類別、書名順に紹介しています
- 対象年齢はあくまでも目安です
- 「シリーズあり」と表記されているものは、シリーズのほんがあります

本を読んだら「よんだしるし」の
ところに色をぬってね。



おはなしのえほん

物語の絵本です。
子どもたちは、絵本の中に入り込んで、主人公と一緒に物語の世界を楽しめます。



『アンガスとねこ』



マージョリー・フラック／さく・え
瀬田貞二／やく
福音館書店



子犬のアンガスは知りたがりや。ある日、ねこに興味を持って追いかけてますが、届かないところへ逃げられてしまいます。ついにアンガスは寝室へ追い込みましたが、ねこはいなくなってしまう。いったいどこへ行ったのでしょうか。※シリーズあり

『おかあさんだいすき』

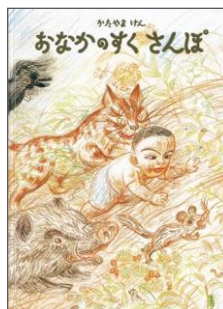


まーじょりー・ふらつく
／文と絵
光吉夏弥
／訳 編
岩波書店



ダニーは、おかあさんの誕生日のために贈り物を探しに出かけました。動物たちに聞いても、なかなか見つかりません。最後に、くまのところに行くと、くまはいいことを教えてくれました。さあ、ダニーはどんな贈り物をするのでしょうか。

『おなかのすくさんぽ』

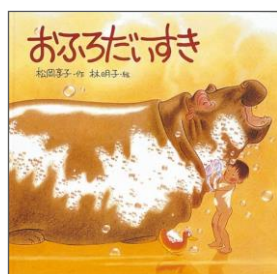


かたやまけん
／作
福音館書店



ぼくが真っ白いシャツを着て歩いていると、動物たちに出会いました。ぼくはクマやイノシシ、ミミズやイモムシたちと一緒に泥んこになって、洞窟に入ったり、山の上から転がり下りたりして思いっきり遊びます。自分も一緒に遊んだ気持ちになれる、野性的で開放感あふれるお話です。

『お風呂だいすき』



松岡享子／作 林明子／絵
福音館書店



お風呂が大好きな男の子があひるのブッカとお風呂に入りました。するとお湯の中から、かめやペンギン、オットセイが次々と現れます。かばの体をあらったり、みんなでくじらのシャワーをあびたりして、一緒にお風呂に入って楽しめます。

『かいじゅうたちのいるところ』

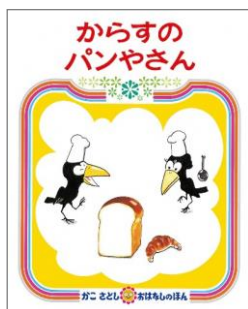


モーリス・センダック／さく
じんぐうてるお／やく 富山房



ある晩、マックスは大暴れして、お母さんに寝室へ放り込まれました。波が運んできた船に乗って出発し、着いたところは怪獣たちのいるところ。マックスは怪獣たちと大暴れして王様に。愉快的な怪獣たちと一緒に、子どもたちも怪獣以上に大暴れして楽しめます。

『からすのパンやさん』



かこさとし
／作 絵
偕成社



からすのチョコちゃんたちの家はパン屋さん。売れ残りのパンをおやつに食べていると、味見をした友達が「おいしい」と言って大評判に。消防車や救急車、テレビカメラマンまでやって来ました。おいしそうなたくさんのパンの絵も楽しいです。※シリーズあり

『ガンピーさんのふなあそび』



ジョン・バーニングガム／さく
みつよしなつや／やく ほるぷ出版



ガンピーさんが舟で川に出かけると、子どもや動物たちが次々と「乗せて」と言ってきます。「静かに乗るならいいよ」などと乗せてあげましたが…。穏やかに舟遊びを楽しむ場面からの急展開も楽しく、ガンピーさんの最後の言葉が幸せな気持ちにしてくれます。

『きみなんかだいきらいさ』

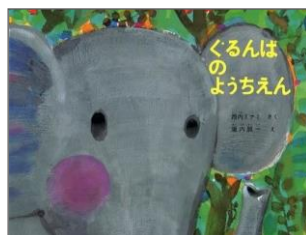


ジャニス・メイ・
ユードリー
／ぶん
モーリス・
センダック／え
こだまともこ
／やく
富山房



ジェームズとぼくは犬の仲良し。でもジェームズはいぱりやだし、砂をなげるからぼくは大嫌いになります。そこで「もうともだちになってやらない」と言いに行きました。子どものけんかや仲直りの心の変化を、シンプルな絵と文がゆかいに伝えています。

『ぐるんぱのようちえん』



西内ミナミ／さく
堀内誠一／え 福音館書店



ひとりぼっちのゾウのぐるんぱ。はりきって仕事をして大きな物ばかり作ったので、どこへ行ってもくびになります。しょんぼりしていると、子だくさんのお母さんに会いました。今まで作った物がすべて生かされ、幸せな結末に子どもたちもほっとします。

『こすずめのぼうけん』



ルース・エインズワース／作
石井桃子／訳 堀内誠一／画
福音館書店



こすずめは、生まれて初めてひとりで空を飛びました。疲れて他の鳥たちの巣で休ませてもらおうとしましたが、入れてもらえません。子どもたちは、こすずめと一緒に飛んでいき、最後におかあさんに出会えて幸せな気持ちになります。

『しょうぼうじどうしゃじぶた』

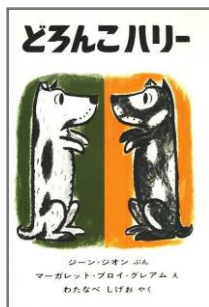


渡辺茂男／さく 山本忠敬／え
福音館書店



じぶたは、古いジープを改良した小さな消防車。はしご車やポンプ車や救急車が大活躍する姿をうらやましく思っているところに、山小屋の火事の連絡が入りました。子どもたちは、じぶたに心を寄せ、最後の場面では自分のことのように誇らしく感じます。

『どろんこハリー』



ジーン・ジオン
／ぶん
マーガレット・
ブロイ・グレアム
／え
わたなべしげお
／やく
福音館書店



ハリーは黒いぶちのある白い犬。お風呂が嫌で外に逃げ出し、あちこちで遊んで白いぶちのある黒い犬になってしまいました。家に帰っても誰にもハリーだと気づいてもらえません。子どもはどろんこになって遊ぶハリーに共感し、幸せな結末に満足します。

『はろるとむらさきのくれよん』



クロケット・
ジョンソン
／作
岸田衿子／訳
文化出版局



ハロルドは月夜の散歩がしくて、むらさきのクレヨンで月と道を描きながら歩いていきます。ドラゴンに出会ったり、海の中に沈みそうになったりしますが、クレヨンで描いた絵に助けられ、旅を続けます。子どもたちはハロルドと一緒に冒険の旅を楽しみます。

『ピーターラビットのおはなし』

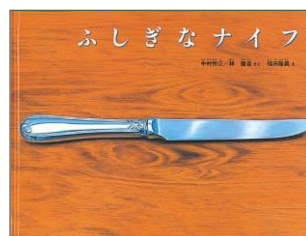


ビアトリクス・
ポター／さく・え
いしいももこ
／やく
福音館書店



4ひきの子うさぎは、お母さんからおひやくしゅうのマクレガーさんの畑だけは行ってはいけないと言われていました。しかし、いたずらなピーターは畑に行きマクレガーさんに追いかけられます。子どもたちはピーターと一緒にハラドキドキします。

『ふしぎなナイフ』

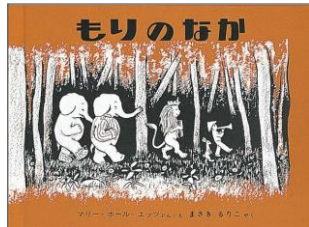


中村牧江／さく 林健造／さく
福田隆義／え 福音館書店



テーブルの上に置いてある一本のナイフ。ふつうのナイフに見えますが、実はふしぎなナイフです。ナイフが曲がる？ ほどける？ とける？ ナイフは固いという概念をくつがえす発想が面白い。

『もりのなか』



マリー・ホール・エッツ／ぶん え
まさきりこ／やく
福音館書店



男の子が森に散歩に出かけると、動物たちが次々と散歩に加わります。最後にかくれんぼをして、おにになった男の子が目を開けると、そこにいたのは…。子どもたちは個性豊かな動物たちと、一緒に遊びます。

『ゆかいなかえる』



ジュリエット・ケベシュ／ぶん え
いしいもこ／やく
福音館書店



4つの卵が孵化して、やがて4匹のかえるになりました。かえるたちは鳥や亀から身を隠したり、かたつむりの隠しこをしたりして夏じゅう仲良く過ごします。かえるたちが冬眠するまでの1年間で、ユーモラスな絵で描かれて、仲間と遊ぶ喜びや楽しみを感じられます。

『ゆきのひ』



エズラ＝ジャック＝キーツ／ぶん・え
きじまはじめ／やく 偕成社



ある日、ピーターが目覚めると外は一面の雪げしき。ピーターは新しい雪に足あとをつけたり、雪の山からすべりおたり。最後に雪だんごを作ってポケットにしまいます。子どもたちは、ピーターと一緒に初雪に驚き、雪遊びを楽しみます。※シリーズあり

『わゴムはどのくらい伸びるかしら？』



マイク・サーラー／ぶん
ジェリー・ジョイナー／え
きしだえりこ／やく ほるぷ出版



坊やは、わゴムがどのくらい伸びるかためしてみたくまりました。わゴムをベッドの枠にひっかけて外へ出発です。自転車に乗って、バスに乗って、砂漠でラクダに乗って…。わゴムはいったいどこまで伸びていくのでしょうか？

かがくのえほん

身近な物事を子どもたちにわかりやすく、また興味を持つよう描いています。
読み終わったら、実際に楽しめる絵本もあります。



『かぜフーホッホ』

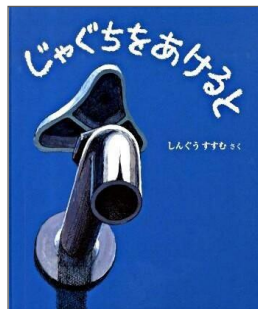


三宮麻由子／ぶん 斉藤俊行／え
福音館書店



風はいろいろな音を立てます。干したシーツが大きくあおられる音、竹やぶの竹同士がぶつかる音、木の葉が舞う乾いた音。そして、風が止んだ時には、鳥の鳴き声が。なにげない日常の音に興味を向けさせてくれる絵本です。

『じゃぐちをあけると』

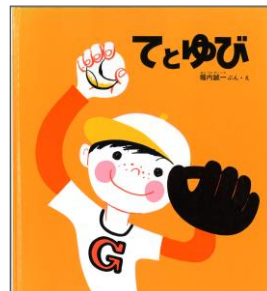


しんぐうすすむ
／さく
福音館書店



じゃぐちをあけると、水が出る。その水にコップを当てると、ふうせんの形に。スプーンを入れれば宇宙船が現れる。自分の働きかけで姿を変える水。子どもたちはさっそくやってみたくなり、水浸しになりながら、新しい形を発見します。

『てとゆび』



堀内誠一
／ぶん・え
福音館書店



てとゆびは毎日使う体の一部。普段意識していないけれど「親指を使わないでボタンはとめられない」「左手と右手はぴったりくっつく」など、思わずやってみたくなる、すごいてとゆびの働きがわかります。

『どろだんご』



たなかよしゆき
／ぶん
のさかゆうさく
／え
福音館書店



子どもたちが、どろだんごを作り始めました。鉄みたいに重いもの、スズメの卵みたくに小さいものなど、個性的などろだんごができました。もしひびがはいってしまっても大丈夫。直せますよ。自分だけのどろだんごを作って遊びたいくなります。

『びっくりまつぼっくり』

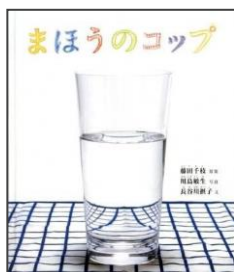


多田多恵子
／ぶん
堀川理万子／え
福音館書店



まつぼっくりはとっても不思議。上から見ると花びらみたいだし、種はくるくる回って落ちていく。雨の日は小さなしよんぼりまつぼっくりに変身！まつぼっくりの変化をストーリー仕立てで紹介します。挑戦したくなるびっくり手品ものっていますよ。

『まほうのコップ』



藤田千枝／原案
川島敏生／写真
長谷川摂子／文
福音館書店



種も仕掛けもない、水を入れただけのガラスのコップ。コップの向こうにしめじを置くと、がまがえるに。2つの急須は注ぎ口が入れ替わった！すじが入ったコップに変えたら、丸いりんごが切れた！手品のような口上とともに、水の屈折の不思議を楽しめます。

『やさいのおなか』



きうちかつ
／さく・え
福音館書店



「これなあに」問いかけの後には不思議な形。ページをめくると形に色がつき、野菜の絵が現れます。不思議な形は野菜の断面図。子どもたちは、ねぎ、ピーマン、ニンジンなどの「おなか」から答えを予想します。※シリーズあり

むかし ばなしの えほん

絵本がなかった時代から、長い
間語り継がれてきた昔話には、
子どもの心を深くとらえるも
のが数多くあります。



『あかずきん』 (グリム童話)



大塚勇三／やく
堀内誠一／え
福音館書店



おばあさんのお見舞いに出かけた赤
ずきんは、おおかみにだまされて寄り道
をします。先回りでおばあさんを飲み込
んだおおかみが、あかずきんも食べよう
と待っていると、あかずきんがやってき
ました。二人のやり取りや鮮やかな絵
が、子どもたちをひきつけます。

『おおかみと七ひきのこやぎ』 (グリム童話)



フェリクス・ホフマン／絵
せたていじ／訳 福音館書店



お母さんやぎの留守中、こやぎだけの
家におおかみがやってきました。こやぎ
たちは、お母さんに教えられたとおり、
おおかみを中に入れませんでした。三
回目によってきたとき…。ヨーロッパの
風物を描いた深みのある絵が、グリムの
昔話の世界を正しく伝えます。

『三びきのこぶた』 (イギリスの昔話)



瀬田貞二／やく
山田三郎／え
福音館書店



三びきのこぶたは、家を出て自分たち
で暮らすことになりました。わらや木の
家を建てたこぶたはおおかみに食べられ
てしまいますが、レンガの家を建てたこ
ぶたは知恵を使って生きのびます。イギ
リスで昔から伝わってきた話を忠実に訳
しています。

『三びきのやぎのがらがらどん』
(ノルウェーの昔話)



マーシャ・
ブラウン／え
せたていじ／やく
福音館書店



大中小の三匹のやぎのなまえはどれも、がらがらどん。夏、山の草場で太るために、恐ろしいトロールと対決します。小さいやぎは知恵を使って逃げ、大きいやぎは仲間の信頼に応えトロールを退治します。子どもたちは、がらがらどんやトロールの迫力ある絵にひきつけられます。

『だごだごころころ』
(日本の昔話)

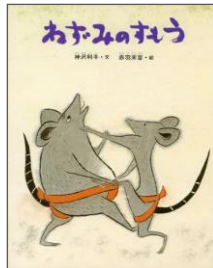


石黒渚子／再話
梶山俊夫／再話
梶山俊夫／絵
福音館書店



ばあさんが、だご(団子)を作っていいさんに届けると、だごは転がってオニの所に。だごがあんまりおいしいので、ばあさんは不思議なしゃもじを持たされて、オニのために毎日だごを作らされます。しゃもじの働きや赤とんぼの活躍も楽しい、ほのぼのとしたお話です。

『ねずみのすもう』
(日本の昔話)



神沢利子／文
赤羽末吉／絵
偕成社



おじいさんが山へしばかりに行くと、おじいさんの家のやせねずみと長者の家の太ったねずみがすもうをとっていました。やせねずみは負けてばかりでしたが…。おじいさんとおばあさんが、やせねずみを大切にする姿に子どもたちは温かい気持ちになります。

『ひつじかいとうさぎ』
(ラトビア民話)



うちだりさこ／再話
すずきこうじ／画 福音館書店



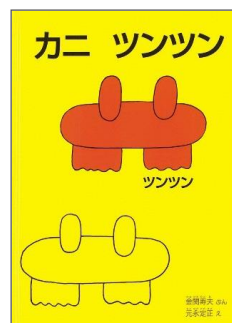
羊飼いの男の子は、捕まえたうさぎに逃げられます。キツネや牛、こん棒や火に「捕まえてくれ」と頼みますが、相手にしてくれません。最後に頼んだくまからの逆転回がスピーディで迫力があり、一気に結末まで子どもたちを引っ張ってくれます。

ことばのえほん

わらべうた、ことばあそび、なぞなぞのえほんです。
お子さんと一緒に声に出して楽しんでください。



『カニツンツン』



金関寿夫／ぶん
元永定正／え
福音館書店



「カニ ツンツン ビイ ツンツン」
「トチチリツン トチチリトン」声に出して読みたくなる言葉は作者の創作だけでなく、アイヌ語などの言語が組み合わさって出来たもの。不思議な形と鮮やかな色があふれる絵本。言葉の由来ページも読みごたえがあります。

『これはのみのぴこ』

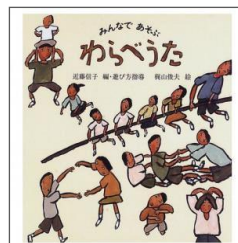


谷川俊太郎／作
和田誠／絵
サンリード



「これは のみの ぴこ」「これはのみの ぴこのすんでいる ねこのごえもん」。ページをめくるとに言葉がどんどん増えていき、最後はとても長い文章に。声に出すとさらに楽しい。早口で読んでみたり、一息でどこまで読めるか挑戦してみたり。

『みんなであそぶわらべうた』



近藤 信子／編 遊び方指導
梶山 俊夫／絵 福音館書店



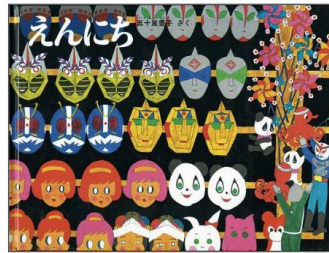
わらべうたで楽しく遊ぶ子どもたちが、画面いっぱい描かれています。「いもむしごろごろ」、「うまはとしとし」など、耳にしたことのあるわらべうたが11曲載っています。簡単な楽譜と遊び方もわかるので、さっそく子どもたちと楽しめます。

じ 字のない えほん

文字がなく、絵だけで描かれたえほんです。
自由にお話ししながら楽しんでください。



『えんにち』

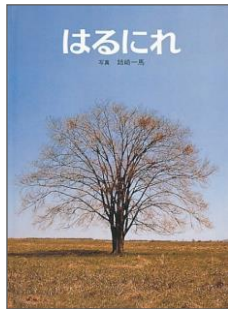


五十嵐豊子／さく
福音館書店



兄と妹が神社へ行くと、綿菓子屋さんが屋台を組み立てていました。やがて他の屋台もお店を開き、ふたりはきんぎょすくいのお店や、たこ焼きのお店などを見て歩きます。細かく描かれた屋台の様子や浴衣姿の見物人などから縁日のわくわくした雰囲気が伝わってきます。

『はるにれ』



姉崎一馬／写真
福音館書店

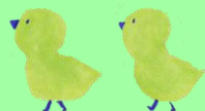


草原に一本のはるにれの木が立っています。吹雪に耐え、枝が真っ白になります。やがて雪原にたたずむはるにれ。やがて春になり、葉を繁らせます。一本の大木の四季、様々な時間を撮影した写真で構成されています。自然の厳しさとやすらぎを感じられます。



ちょっと ながい おはなし

絵本の次に読んであげたい本です。毎日少しずつ読んであげること、絵本から童話への橋渡しをスムーズにしてくれます。



『こぐまのくまくん』



E.H. ミナリク
／ぶん
モーリス・センダック
／え
まつおかきょうこ
／やく
福音館書店



冬、「なにかきるものがほしい」というこぐまのくまくんに、おかあさんぐまは帽子、オーバーなどを着せてくれます。「毛皮のマントがほしい」と言ったくまくんに、おかあさんがしたことは何でしょう。くまくんが主人公の短いお話が、4つ入っています。

『ざりがにのおうさままっちゃん』

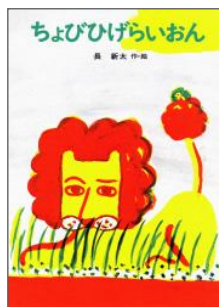


おおともやすお
／さく
福音館書店



のぞみは、ざりがにを一匹も釣ったことがありません。雨や雷が鳴ってもがんばって釣り続けていたら、ついにざりがにがたくさん入った壺を釣りあげました。のぞみのあきらめないでがんばる姿に子どもたちは共感します。

『ちょびひげらいおん』



長新太／作 絵
あかね書房



すごく長いひげのらいおんが昼寝をしていたら、へびがひげを食べ始めました。へびがやっと離れたと思ったら、今度は木の枝にひげがひっかかりました。大胆でゆかいな絵と奇想天外なお話に、子どもたちは、「次はどうなる？」とわくわくしながら聞いてくれます。

『はじめてのキャンプ』

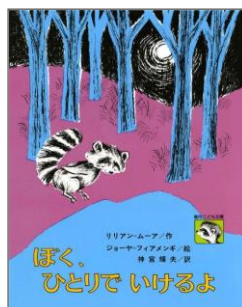


林明子／さく え
福音館書店



なおちゃんは、重い荷物を持つ、泣かない、暗闇をこわがらない、の3つを条件に、大きい子のキャンプに連れてってもらいます。がんばって約束を守ったなおちゃんの達成感を、子どもは自分のことのように感じ、深く満足します。

『ぼくひとりでいけるよ』



リリアン・
ムーア／著
ファイアメンギ
／え
じんぐうてるお
／やく
偕成社



リトルラグーンは、あらいぐまの子ども。満月の夜、生まれて初めて一人で晩ご飯のざりがにを取りにでかけます。でも水に写った自分の姿に驚き、家に帰ってしまいました。おかあさんとのかわりが子どもたちに安心感を与え、達成感も味わえるお話です。

『みどりいろのたね』

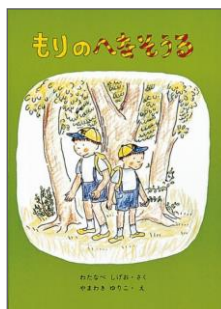


たかどのほうこ
／作
太田大八／絵
福音館書店



まあちゃんは、えんどう豆の種と一緒に、なめていたメロンあめも土に埋めてしまいます。メロンあめは、えんどう豆に「つまらないやつ」と言われて怒ります。さて、実ったえんどう豆のお味は？ ゆかいな絵と、意外な成り行きを子どもたちは楽しんでくれます。

『もりのへなそうる』



わたなべしげお
／さく
やまわきゆりこ
／え
福音館書店



5歳のでつたくんと3歳のみつやくんは、森で、生まれたての怪獣「へなそうる」に会います。ぎっこんばっこんやかくれんぼをして、3人は暗くなるまで仲良く遊びます。挿絵は愛らしく、小さいみつやくんの言葉の取り違えも楽しい。

袋井市立図書館のご案内

詳しくはこちらから



○袋井図書館

高尾町19-1 TEL.42-5325

- 開館時間
火・金・土・日曜日 / 9:30~17:30
水・木曜日 / 9:30~19:00

- 休館日
月曜日・館内整理日
年末年始・特別整理期間・3/31

○月見の里学遊館図書館分室

上山梨4丁目3-7 TEL.49-3402

- 開館時間
金~火曜日 / 9:00~17:30
水曜日 / 9:00~19:00

- 休館日
木曜日・館内整理日
年末年始・特別整理期間・3/31

○浅羽図書館

浅名976-1 TEL.23-6801

- 開館時間
火・水・木・土・日曜日 / 9:30~17:30
金曜日 / 9:30~19:00

- 休館日
月曜日・館内整理日
年末年始・特別整理期間・3/31

*休館日は図書館ホームページのカレンダーでご確認ください



おはなし会

図書館では、3歳くらいから小学校3年生向けに絵本の読み聞かせを行っています。申込みは不要です。直接、図書館までお越しください。日程は「図書館ホームページ」でご確認ください。



詳しくはこちらから

お子さんも、図書館の利用者カードが作れます

このリストで紹介した絵本の他にも、図書館には楽しい絵本がたくさんあります。お子さんのお名前のカードで本が借りられますので、初めてカードを作られる方は住所・氏名・生年月日の確認できるもの（マイナンバーカード、健康保険証等）をお持ちのうえ、お近くの図書館へお越しください。



詳しくはこちらから

「ふくぶっくつうちょう」で読書の思い出を記録しませんか？

預金通帳のように袋井市立図書館で借りている本の情報（本を借りた日、書名、著者名、本の金額）を図書館にある専用の機械で印刷、記録できます（高校生以下は無料）。お子さんと楽しんだ絵本の記録を残しませんか。



詳しくはこちらから

